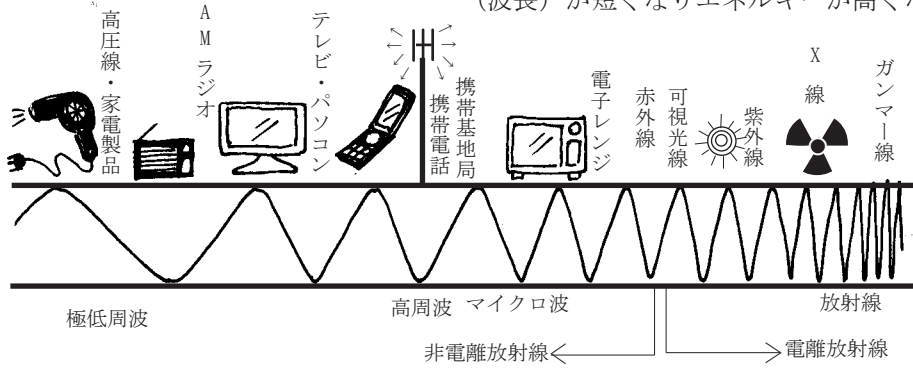


# 電磁波って何？

携帯電話や携帯基地局の高周波、家電製品や高圧線の低周波、原発事故で問題になっている放射線はいずれも「電磁波」の仲間です。周波数が高くなるほど波と波の間(波長)が短くなりエネルギーが高くなります。

参考/「危ない携帯電話」 荻野晃也著



## [各国の携帯電波基準値]

1.8GHZ(単位  $\mu w/cm^2$ )

日本/アメリカ	1000
ロシア	10
スイス	9.5
リヒテンシュタイン	9.5
フランスウーラン市	0.1
ザルツブルグ州 (屋外)	0.001
(屋内)	0.0001

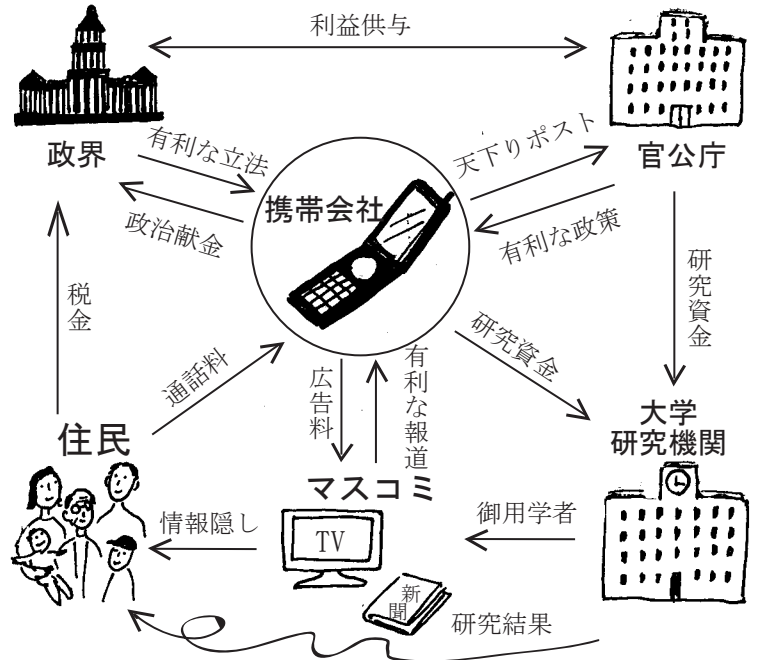
## 2011年5月 WHO (世界保健機構) 携帯電話の発癌性リスクを発表

WHO国際癌研究機関は携帯電話の高周波を「発がん性の可能性があるランク2B」に分類した。クロロフォルム、ガソリンエンジン・排気ガス、極低周波鉛等と同じ部類に入る。タバコは「発がん性がある ランク1」。当初の評価はランク2Bから始まり、その後 因果関係が明確になりランク1になった。

2007年には、家電製品や高圧線の低周波も同じ2Bに分類され、WHOは「小児白血病との関連が否定できない」として、各国に法整備を呼びかけている。

2010年11月、東京女子医大医師グループも、携帯を1日20分以上使用すると、聴神経腫瘍のリスクが有意に増えると発表した。

## 携帯事業推進のカラクリ(癒着の構造)



朝日新聞 2010年11月17日(水曜日)

## 携帯電話基地局健康に影響 162人 延岡の三自治会調べ

延岡市大貫町5丁目にSDH(本社・東京)が建てた携帯電話基地局の健康への影響について、周辺の3自治会が地域住民にアンケートを実施した。265世帯から回答があり102世帯の162人が建設後の体調異常や悪化を訴えた。市は区長らの要望を受け12月3〜5日に大貫中区公民館で健康相談を実施する方針だ。

過去に2度同様の調査が行われており、今回は7月25日から7日間実施。基地局からおおむね半径300m内の550世帯に用紙を配布し、症状や悪化の有無を尋ね、基地局までの距離を調べた。

異常を訴えた162人の基地局までの距離は100mまでが73人、100〜200mまでが48人、200〜300mまでが29人、それ以上が12人。基地局が設置された大貫中区が109人で最多だった。

症状(複数回答)は、「耳鳴り・聴力低下」が最も多く77件、これに「異常な肩こり・腰痛・関節の痛み」が続

き70件、「不眠」「頭痛」もそれぞれ55件あり、症状の訴えは計762件。

このうち、基地局建設以前からある症状は98件で、9割近い664件は建設後に発生悪化した症状だという。

過去の調査も基地局から半径約300mの範囲で実施。2007年5月の調査では63人(104世帯回答)08年7月の調査では79人(144世帯回答)が、耳鳴りや肩こり、不眠などの症状を訴えており、その数は増加傾向。区長らは「前回異常なしの人も、今回体調不良を訴える例も多い。症状も重篤になっている。」と話している。

区長らは今月2日、これらの結果を、首藤正治市長に報告し、3区長連名の要望書を提出。市長は「症状把握、不安解消のため、健康相談を実施する」と応じた。市は近く健康相談の案内文書を住民に配布する予定だ。

この基地局を巡っては、大貫町の住民30人が、基地局からの電波で健康被害を受けているとして、EADIを相手取り、基地局操業差し止めを求める訴訟を起こし、宮崎地裁延岡支部で争っている。